

	29	3	29 3
	4		
	URL		

学習の概要に関するレポート

私は3年次の夏から2セメスター分、USACプログラムを利用してネバダ大学リノ校(以下UNR) IELCに留学した。留学を決めた時期が2年の夏とかなり遅かったが、どうしても英語が勉強したかったので、英語を集中して勉強できる環境で留学することを決めた。IELCではアメリカの大学に入るための準備としての英語を学ぶことができた。IELCはアメリカの大学に入学するための機関であり、プログラムを終えると、TOEFLやIELTSなどのスコアがなくても、協定を結んでいるUNRや短大であるTMCCへの推薦がもらえる。

留学がスタートするとオリエンテーションが行われ、その時にクラス分けのテストが行われた。上からHA、LA、HI、LIの4クラスがあり、どのクラスも授業はListening/Speaking、Reading/Writing、Integrated Skillsの3種類のクラスであった。Integrated SkillsはHAとLAの生徒と一緒に授業を受け、映画、食べ物、ビジネス、エンジニアなど幅広い分野から1つ選択して受講することができる。1セメスターで4回受けることができる。クラス分けで最初はListening/SpeakingはHIのクラス、Reading/WritingはLAのクラスからスタートした。1セメスター目の半分が過ぎたところで成績の状況を見て、Listening/Speakingの先生からLAのクラスに上がるように言われた。2セメスター目はHAのクラスで過ごし1つだけUNRの授業を取ることができた。無事すべてのクラスをクリアすることができた。クラスにもよるが課題が膨大で、図書館で深夜まで勉強することもしばしばあった。また1セメスター目で終えたLAと2セメスター目のHAのクラスのレベルが大きく違い、後半はより多くの時間を勉強につき込む必要があった。また、成績は普段から出席はもちろん、授業の参加度も重要である。そのため、授業中になるべく発言するよう、質問をしたり、発表を積極的に行ったりした。毎週金曜日IELC主催のイベントに参加することで世界各国から集まった生徒と仲良くなり、自分の視野が広がった。積極的に自分から人脈を広げよう、話しかけようという姿勢が重要である。その点においては、HUSAプログラムのUNRへの留学よりも友達の数が増えやすいと思う。

この留学を通して、語学力向上と、いろんな国の人と会えたことが大きかったと思う。特にこのタイミングで英語が喋れるようになったという実感があったわけではないが、英語を学習するうえでは日本語をなるべく使わないことが重要であった。最初の3カ月間は現地で会った日本人とよく遊んでいたが、どうしても英語が伸びないと感じたので、できるだけ日本人以外と遊ぶようにした。それによって英語力は伸びたのではないかと思う。また、現地でできた世界各国の友達と話すことで異文化を深く理解することができたのではないかと思う。行く前に受けたIELTSのスコアが5.0、帰る前に受けたTOEFLのスコアが76だった。比較が難しいが、参考にさせていただければと思う。

LA

(all you can eat)



の という日本の文化を学ぶクラブでの